

会 議 録

会議の名称	子育て支援計画策定委員会（第4回）
開催日時	平成14年10月20日（日） 午後3時30分から午後4時45分まで
開催場所	保谷小学校体育館
出席者	（委員）森田委員長、有澤副委員長、安藤委員、川又委員、片山委員、武田委員、出川委員、古荘委員（欠席 田口委員、本間委員） （事務局）富田課長、田島 （コソカ外）高屋、兵庫、山領 （傍聴者）1名
議 題	（1）会議録の承認 （2）「子どもの育ち・子育て支援を一緒に考える会」の結果をふまえた意見交換 （3）作業部会等の報告
会議資料	1 会議次第 2 資料 作業部会等の経過報告と今後の予定について
会議内容	発言者の発言内容ごとの要点記録

発言者名	発言内容
森田委員長	開会宣言
事務局	資料の確認 本日の資料は「会議次第」と「資料 作業部会等の経過報告と今後の予定について」の2つである。
森田委員長	議題1 会議録の承認について 訂正の依頼があり、それを直したものを今回提示した。
森田委員長	議題2 「子どもの育ち・子育て支援を一緒に考える会」の結果をふまえた意見交換 今日の意見交換会には、障害のあるお子さんをお持ちの方やひいらぎに通っていらっしゃるお子さんをお持ちの方がいた。障害を持つ子どもに関する追加的な議論はあるか。
古荘委員	現在通っている保育園や障害児施設等の制度で直して欲しいことがあるのに、伝える場がない。
森田委員長	おとといひいらぎの親に会った。問題を感じ、施設職員に話しをしても、それを持ち込む場がないという話を聞いた。集団の中でも育てたいし、機能の改善の取り組みもしたいが、どちらかにしか選択肢がなく、両立ができないとのことだった。
古荘委員	両方必要で、それらが日々受けられる体制が欲しい。
武田委員	上の子どもるときと下の子どもるとき（共に小学校のとき）の両方ときに障害を持つ子が同じクラスにいた。友だち関係がよく、その子たちは他の子どもたちに受け入れられていた。障害を持つ子が通常学級に通うのは、小学校までは幼児のころの人間関係が継続できるが、中学校では人間関係を支える配慮が必要だろう。

有澤副委員長	<p>障害を持つ子どもの通常学級への入学には色々な問題がある。市は施設を改善してくれるが、人員の配置はしてくれない。障害児が通常学級に入ることによって健常児には思いやりが育つ一方、約 40 人の子どもを受け持つ担任は大変である。ボランティアの方もいらっしゃるが、入れ替わり立ち替わり 1 人の子についているのが現状で、担任の先生はボランティアの方への指示等の対応もしなければならない。そのボランティアもなかなか見つからないという問題もある。</p>
古 荘 委 員	<p>ある親は自分でボランティアを見つけている。市がしっかりとボランティアを募れば、学校も障害児をより受け入れ易くなるのではないか。</p>
森田委員長	<p>市民の皆さんの意見を聞いて、それを提言の土台にする。そういった根拠のある、具体的な提案にすることが必要である。各委員に提案をして欲しい。障害のある子どもの療育、集団化、学校教育をどうするかといった問題について考えておいてほしい。</p> <p>次に、経済支援について議論したいと思う。昨年実施したアンケートでも経済的な支援を求める回答が多かった。こうした意見は他のどの自治体でも多い。今日の意見交換会でも施設費用を減らし、市民への経済支援を充実すべきとの意見が出た。</p>
有澤副委員長	<p>福祉施設は利用する必要がある人のためにあり、施設を使わない人には恩恵がない。しかし、深刻な状況に置かれている人に支援が行き届かないと困る。</p>
川 又 委 員	<p>病気を持つ子どもの問題も忘れてはならない。今は国も都も医療関係の補助を減らしており、個人の負担が増している。病気の子を持つ親の負担軽減が大事である。経済的な支援については、皆に届けるより、深刻な状況に置かれている人に届けるべきではないだろうか。子育て支援の施策に関しては、施策の恩恵を受けないという人はいないだろう。</p>
安 藤 委 員	<p>児童手当なども既にあるので、経済的な支援をさらに増やすよりも、手続きの簡略化といったシステム面の改善を図るべきではないか。</p>
川 又 委 員	<p>保谷市にあった総合相談窓口のような窓口をもう一度考えたらどうか。相談に来る市民をたらい回しにしないシステムが大事である。</p>
(事務局)田 島	<p>今日の意見交換会でも、障害を持つお子さんの父親から、障害児に関する窓口や手続きの一本化の必要性についてご意見をいただいた。同じことが子育ての部門でも必要だと感じる。</p>
森田委員長	<p>行政のシステムを考えるのも委員会の役割である。一本化すればすべて解決というわけではないし、一部署ですべてを担当することは不可能である。どういった区切り方をすれば住民のニーズにいちばん対応できるかを考えることが重要である。例えば年齢で区切る、問題で区切るなど、色々な区切り方を考える必要がある。</p>
安 藤 委 員	<p>年齢区分でみていくことは大事だと思う。</p>
森田委員長	<p>また、支援を行政でやるのか、地域でやるのか、家庭でやるのかということも考える必要がある。例えば、子どもが保育園から小学校にあがるときに、それまで親子は地域とのつながりがなく、不安の中で地域にでていくという話が今日の意見交換会でも出た。地域でのつながりがない親子のための支援をどこで行うのがいいだろうか。</p>

有澤副委員長	<p>小学校の場合、様々な幼稚園や保育園等から子どもが集まって集団生活を始める。仲間づくりに少し時間がかかったり、全く時間がかからなかったりと、子どもによって異なる。一方、学童クラブは遊びや生活を通して仲間をつくるため、比較的仲間をつくり易い。</p>
森田委員長	<p>子どもがひ弱になっているという問題と、地域の危険度が増している中で子どもをどのように擁護するのかという問題がある。この2つの問題をどのようにカバーするのかということは、今まで政策的には考えられていないと思う。</p>
武田委員	<p>昔は遊び場や路地があった。うるさくすると子どもは近所の人に叱られ、小さい子どもはそれを見て学習できた。子どもをつなぐのと同じように、親たちをつなぐ事が大切である。親たちのつながりだけで子どもを叱ることもできる。今は、子どもたちがうるさくしていると大人は警察に通報することもあるようだが、その場で注意できる人間関係を作ることが大切だ。</p>
安藤委員	<p>自分の家の周りで子どもを見かけることが非常に少ない。また、事件報道等の影響で大人は子どもを怖がってしまい、警戒して子どもに気軽に声を掛けることもできない。</p>
森田委員長	<p>大人は子どもにおびえていると同時に、子どもを支配している。</p>
有澤副委員長	<p>頭では地域との関わり合いが大切だと思っけていても、自分自身で地域に入って関係をつくろうと思っけている人がどのくらいいるかは、疑問である。</p>
森田委員長	<p>意見交換会に来てくださるのは、地域のほんの一部の方々である。意見交換会に来ない人のニーズを本当に読んでいるのだろうか。</p>
武田委員	<p>子どもには何が本当に大切なのか、親が認識できないこともあり、地域の支援は欠かせない。</p>
森田委員長	<p>子育てを通して、親が子どもと共に成長していく場を用意しても、人々に来てもらえないかもしれない。どのような場が求められているのだろうか。</p>
古荘委員	<p>健全児を育てる場合は、保護者会を通して子育てについて学び、障害児を育てる場合は親同士の関わり合いが強く、その親たちから多くのことを学んだ。このように、自分は親同士で交流していく中で育っていったように思う。ただし、子どもが1～2歳だと、親が子どもにかかりきりで外に出る機会が少ない。</p>
安藤委員	<p>女の子が公園で遊んでいると、男の子がいじめてしまうことがある。一緒に遊ばないようにするのがいちばん早い解決法であるが、そうすると親同士の人間関係が離れてしまう。そのような時、誰かが助言してあげれば一緒に遊ぶことができる。そういうリーダーになる人がいない。</p>
片山委員	<p>私の周りの若い世代は、子どもを産むことよりも自分の進路を優先し、まだ子育てへの視点は育っていない。普段子どもに接する機会も少ない。実際に問題にあたらなると子育てについて考えることもない。</p> <p>また、自分が住んでいる地域は、近所づきあいが盛んなところと、そうでないところと様々であるが、自分は地域について考えることはあまりない。</p>
森田委員長	<p>循環型の子育て社会づくりについては、昨年度かなり議論をした。若い人が親として育つことについて、母子保健の分野ではどのような方向にあるか。</p>

川又委員	高校生が保育園を見学しているという話は聞いているが、母親学級への参加は少ない。中学校の総合学習でも子育てに関する学習はあまり行われてない。
安藤委員	女性の職場での環境はよくなってきたが、子育てを女性に任せるといことがまだ続いている。男性（父親）を育てることが必要ではないか。
有澤副委員長	生涯学習の中で、地域の中で、どのように親を育てていくのか。子育て支援課だけでなく、教育委員会もある。関係する部署や学校等の連携が必要である。
川又委員	子育てをしているとき、親はいちばん地域と関わるができる。
森田委員長	子育て中の人々が地域との関わりを築けるような仕組みを考えていきたいと思う。親が育つ計画、企画をどのようにつくっていくか。呼び水みたいなものを見つけていきたい。
森田委員長	議題3 作業部会等の報告 子ども部会：11月9日、10日の西東京市民まつりで子どもによる調査を実施予定 子育て支援団体等へのヒアリング：ヒアリング一部終了、アンケート調査票回収済 庁内ヒアリング：第1ステージヒアリング終了
(事務局)田島	第3回「子どもの育ち・子育て支援を一緒に考える会」及び 第5回西東京市子育て支援計画策定委員会の日程： 11月29日（金）午後1時から 場所：未定
森田委員長	閉会宣言